

皆さんは、毎年七月が「福岡県同和問題啓発強調月間」であることをご存じですか。今日は、福岡県が制作し、「強調月間」にテレビで放映したCMを紹介いたします。ある女性が、結婚しようと決めたパートナーを自分の家族に紹介した時の一場面です。

(CM)

出生、進学、就職、恋愛

ずっと応援してくれた家族がいた。

ずっと幸せだった私がいいた。

でも…

「出身はどこか聞いたか？」「地元ってどこの人なの？」

彼と結婚しようと思ったとき

応援の言葉は一つも出なかった。

部落差別で苦しんでいる人が今もいます。

この笑顔の邪魔なんてさせない。させるもんか。

いかがでしたか。

もし、あなたが住んでいる所を理由に結婚を反対されたとしたら……。反対されるのが怖くて、自分の生まれ育った所を結婚相手の親に言えないとしたら……。

北九州市が、令和二年八月に実施した「人権問題に関する市民意識調査」によると、「同和問題に関して、人権が尊重されていないと思うことは何か？」という問いに対して、およそ五割の人が「結婚問題で周囲が反対する」と答えています。

一方、「結婚相手を考える際に、気になることは何か？」という問いに対しては、「同和地区出身かどうか」と答えた人が一割近くおり、結婚に関する差別意識が今も残っていることがうかがえます。

先ほどのCMの主人公の親は、自分の中の偏見に気づきました。シーンの最後は、二人が授かった赤ちゃんが、家族の笑顔に囲まれている場面で終わっています。無邪気に笑う赤ちゃんの未来に、差別があつてはいけないというメッセージが、強く感じられます。

生まれた場所や住んでいる所で差別されることは、絶対にあつてはならないことです。そのような差別をなくすためには、私たち一人一人が同和問題・部落差別について、正しい知識を身につけることが解決への第一歩なのです。

ご紹介したテレビCMは、公益財団法人福岡県人権啓発情報センターのYouTubeチャンネルで配信されています。ぜひ、ご覧ください。

では、また。